vol.394

“馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック”
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2012年10月10日発行ラインナップ ◆
・コウノトリと共に生きる
・九州菱肥会実務者研修会実施
・曽我孝之様　旭日小綬章受章

コウノトリと共に生きる

～兵庫県豊岡市の挑戦

豊岡市 中貝宗治市長

10月5日、兵庫県豊岡市の中貝宗治市長は日本農業研究所（東京都千代田区）で講演を行い、コウノトリも住める豊かな自然と文化をはぐくむ豊岡市のまちづくりを紹介した。

コウノトリと豊岡市の関わり

コウノトリと豊岡市の関わりは、今から半世紀近く前に遡る。コウノトリはかつて日本中で見ることのできた大型の鳥で、湿地に生きる魚類や小動物を餌としている。しかし戦後の圃場整備や河川改修によって餌を供給する湿田が姿を消し、農薬の使用が追い打ちをかけた。こうして野生のコウノトリは1971年、この地を最後に日本から姿を消した。一方絶滅を危惧した市は1965年から人工飼育に取り組み、苦心の末、2005年に初の放鳥に成功。2年後には自然界でもヒナが誕生し、野生復帰の取り組みを着実に進めている。現在、豊岡市では161羽のコウノトリが育っており、日本最後のコウノトリの生息地として環境の保全に努めている。このような野生で絶滅した動物を再度人里に戻す試みは世界で初めてであり、コウノトリの生息地となる湿地環境の整備に努めた結果、市内を流れる円山川下流域と周辺水田がラムサール条約に定める世界の重要な湿地として登録され、国際的な評価を受けている。

環境経済戦略を通じ「小さな世界都市」を目指す

市のまちづくりの背景には、環境経済戦略を通じて、人口規模は小さくても世界に尊重・尊敬される「小さな世界都市」を目指すという目標がある。環境経済戦略とは環境を良くする取り組みとさまざまな企業などによる経済活動が相互に刺激し合いながら互いを高め合っていくまちを目指した取り組みを言う。ここにはコウノトリ保護の歴史の上に、豊かな自然環境と文化環境を保存・再生・創造し、新しい風景を創り上げて行くというまちづくりの基本構想が盛り込まれている。

環境創造型農業の取り組み

環境を良くする取り組みの一例として、豊岡市では「コウノトリ育む農法」を推進している。例えば水稲では、種モミの種子消毒も農薬を使用しない温湯消毒で統一。また、田植えの一か月前から圃場に水を入れる早期湛水や、田植え後40日間8cm程度の水位を維持する深水管理、また中干しを一般的な農法より一カ月程度遅らせる取り組みを行っている。このように水田の湛水期間を増やし、コウノトリの餌となる魚類やカエルなどの生育と繁殖を助けることによって、農薬や化学肥料に頼らず、安全・安心で多様な生き物を育む農業を行っている。そして、これらの水田で栽培された「コウノトリ育むお米」の一部は、地元小学生の要望によって市内の学校給食にも供給されているという。

また、コウノトリも住める環境整備の一環として、市内の一部水田を湿地に戻し市民が生物と親しめるビオトープを設置する取り組みのほか、川や用水路、水田で川魚などの生物が行き来できるように魚道の整備を併せて行い、生物多様性の維持に努めている。

講演後中貝市長を交えた質疑では、「コウノトリ育む農法」で栽培された稲わらを、地元の但馬牛の飼料として使ってはどうか、という提案のほか、埼玉の鴻巣市や千葉の野田市などでも進められているコウノトリの野生復帰の動きについて紹介がなされた。（次ページへ続く）

（前ページより続く）

また、豊岡市は昨年7月に有楽町駅前の交通会館にアンテナショップを設置し、当市のPRに努めている。オンラインショップ（http://toyooka-antenna.jp/）も同時に開設。「コウノトリ育むお米」も手に入れることが出来る。興味のある方は是非。

九州菱肥会実務者研修会実施

去る9月20日～21日、秋日和のもと第32回九州菱肥会実務者研修会が開催され、会員11社、賛助会員2社、事務局の総勢23名の参加を得て盛会となった。

ラピュタファーム施設にて杉本代表取締役の講演を拝聴

研修は福岡県内の3箇所で行われた。初日の東京デリカフーズ株式会社九州事業所では、「青果物に求められる加工・業務用野菜」について受講。同社は野菜の付加価値を考えるにあたり、外観の「カタチ」ではなく、栄養価という「ナカミ」に着目。野菜の栄養価を分析し、この分析データから『抗酸化力』『免疫力』『解毒力』『酸素』といった項目ごとに数値化して表現、野菜の付加価値を高めることに役立てている。同社の10年以上にわたり蓄積された栄養価に関するデータは2万検体以上にのぼり、現在国内唯一のデータベースとなっている。これに加え、野菜の栄養価を瞬時に非破壊で分析する装置の開発等、消費者の立場だけではなく生産者の立場も考慮した取り組みも紹介され、会員からは取引先の生産者を紹介したいとの声が多く上がっていた。

続いて清和肥料工業㈱九州工場を見学。タブレット方式の肥料工場視察は初めての会員も多く、タブレット肥料の特徴である粒度分布の安定と、有機原料の良さを最大限に発揮できる同社独自の製造工程を一同真剣な面持ちで見学していた。

研修2日目は福岡市から車で1時間余りの川崎町で、六次産業化農業経営に取り組むラピュタファームを視察。代表取締役の杉本利雄氏から脱サラし実家の農業を継いだ当時の話から、観光果樹園化したが平日は閑古鳥が鳴いていた状況を年間6万人の来客数に成長させるまでの苦労話を伺った。無農薬・無化学肥料栽培にこだわらず地元の美味しい食材を来客に届けたいという方針には肥料商である会員一同深く感銘を受けていた。

MAC掲示板～休業案内～

来る **10月12（金）** は

当社創立記念日の為、休業とさせて頂きます。

【祝】曽我孝之様　旭日小綬章受章

このほど、東部菱肥会会員のトリニティアグリ㈱代表取締役会長の曽我孝之様が叙勲受章され、さる9月19日、地元群馬県のホテルメトロポリタン高崎で記念祝賀会が開催されました。原浩一郎氏・上杉登氏らが発起人となり各関係者約140名の参加で盛会に行われました。長年に渡る業界の発展、又、前橋市振興の為にご尽力されたご功績が讃えられ各位からお祝いの言葉が贈られました。

ノーベル医学生理学賞を受賞した山中教授の「iPS細胞」。今回の受賞のニュースが沢山流れる中、「i」は何故小文字なの？と疑問に思った方も多いですよね。これは米国アップル社の「iPod」の様に、広く普及して欲しいから真似たそうです。素晴らしい賞を受賞された先生なのに、とても身近に感じてしまいました。

編集事務局：小田、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp